

『被昇天祭を迎えて』

ペトロ 山田 真義

イエズス様をいつも陰から見守つておいでになるマリア様、祈りの際にはどうしても影が薄くなりがちな気がしてなりません。「クリスマス・復活祭」と同様に大切な祭日「被昇天祭」をどこか安易に見つめている自分がいます。

私には高齢な母が健在です。今思えば子供の頃から母に連れられ当り前の様に教会へ足を運んできた私ですが、その引き付ける魅力や神様が与えられた自由意志の重さを今さらながら身にしみて感じ



ています。マリア様を通して母の存在を比べる事は愚の骨頂かもしれませんが、マリア様同様、「優しさ・厳しさ・生活の糧」という日常生活に不可欠な事を教え諭してくれた母に感謝しています。

親を都合の良い道具の様にしてしまいがちですが、母と子の絆を深める事の尊さを見直し、改めて優しきマリア様の支えによってイエズス様が成しえた数々の奇跡を振り返りたいと思います。

多大な恵みを授けて頂いたマリア様、身勝手な信仰に流されている私をいま一度引寄せてください。

『聖母被昇天に想う』

福田 信子

桜の花がいつぱい咲く、素晴らしい日本の城北橋教会で、娘と孫が洗礼を授かり、ただただ感激をしております。韓国から日本に来て、私みたいな愚かで、惨めな者にも、主がこんなにも愛してくださり、この世にありながら神の国を味わうという恵みも頂き、私はなんて幸せなのだろうかと感謝の気持ちでいっぱいです。

その反面、毎日のニュースを見るたびに、本当に現代は子どももの受難の時代であることを感じ、心が痛みます。自動車事故や天災、暴力、あるいは親の都合によって、この世に生まれなかつた子どもたちの不幸を思い、お母さんの苦しみを想像します。新世界への憧れ、希望、夢を持って、待ち望んでいながらもかわらず、母親の温もりも知らず、慈しみを体験できなかった子どもたちが可哀想でなりません。私は聖母被昇天のご絵を見るたびに、マリア様が天に上げられ

ていくとき、そうした子どもたちも、青い衣で生まれ、一緒に天にあげられていく情景を想像するのです。

私はそうした不幸な子どもたちも、死者として名前をつけられ、子どもが大好きなイエズス様のみもとに上げられるように祈らずにはおれません。韓国では経済の発展とともにこうした問題が多発しており、親に代わって、子どもたちが永遠の生命に与えることができるように祈ってくれる修道女会もあります。日本に来て、水子地蔵のことを知りました。日本でもこうした問題で苦しんでいるお母さんを助けてあげることが出来たらと思います。

誤解されるのが心配ですが、子どもには罪がありません。聖母被昇天のご絵を見ていると、マリア様と一緒に、そうした子ども達も天まで連れて行って欲しいと、私は願って、お祈りを捧げたいのです。